

キリスト教保育

年主題 ともに

論説

協同的な学びの中にある
子どもの主体性(2)
橋本祐子

小論

父子関係と父親支援
②父親と母親の良き関係性を考える
小崎恭弘

礼拝のお話
伊集院玲子



2026 JAN.

1

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人につながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

聖書 口語訳聖書・ヨハネによる福音書15章5

地中に深く根を張ったぶどうの木がある。枝を四方に伸ばし、葉を茂らしている。そしてたわわに実をつけている。地中の根は豊かな養分を吸い上げ、それは幹を通り、枝々に送られ、豊かな実となっている。その幹がキリストであり、その枝々が私たちである。一つの生命が私たちに貫き流れ、それによって私たちは養われている。

まず幹がある。そして枝があるということである。中心はキリストである。そして、その枝々として私たちは生かされているのである。そして、「体の一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶ」（コリントの信徒への手紙一12章26）ということが起きてくるのである。起きてこなければならぬのである。

しかしながら、それは私たちの経験の示すところでもなく、理性が教えてくれることでもない。経験と理性が教えてくれることは、それと反対のことからである。人間不信、孤独、うとましさ、人間疎外、そうしたものが、経験と理性が教えてくれるところのものである。

人間が自分たちの歴史を顧みたと時、アダムとエバが罪のゆえに楽園から放逐された話をもってその発端としたことは深い意味があるように思う。神との関係を失っているという自覚、神の前に立ちえないという自覚、それが人間の根底にある自覚であったのである。だが、主イエスはそれにもかかわらず、私たちの自覚、意識に反して、私たちに幹なるキリストの枝であると言われる。しかもそれは、手入れされた枝、清くされた枝であるときえ言われる。さらに、主イエスは私たちの中に歩み入り、私たちの弱さ、運命の中に歩み入られた。私たちの弱さと罪をご自分の責任として背負われたのである。それがキリストの十字架の意味である。

私たちは主イエスのご期待に背かないように生きなければならない。そのためには、キリストに固く結びつき、深くその御言葉に結びついてゆかなければならないと思う。

江口 武憲・執筆（当時・日本福音ルーテル小岩教会牧師）
1975年「キリスト教保育」誌1月号より

キリスト教保育

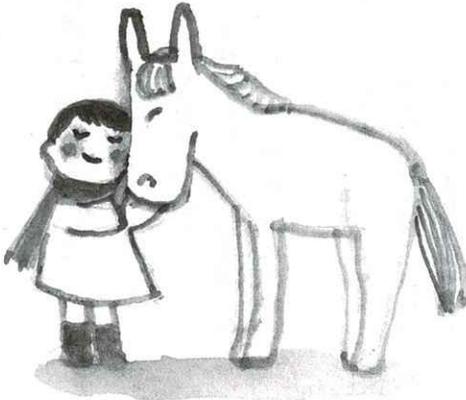
第682号1月号



年主題 ともに

- 〔カリキュラム〕
- 1月 月のねがい表
心にとめて 高梨美紀
- 実践報告 高座みどり幼稚園
実践からの学び 岡部裕子
- 心にとめて 永瀬真澄
- 実践報告 のぞみ幼稚園
実践からの学び 松浦浩樹

43 38 34 33 28 26 25



幼子とともにキリストへ 2

目次

〈巻頭言〉 和菓子で感じる季節感 中村幸一 4

〈論説〉 協同的な学びの中にある 子どもの主体性(2) 橋本祐子 6

〈小論〉 父子関係と父親支援 ②父親と母親の良き関係性を考える 小崎恭弘 16

絵本のとびら 合田真子 21

聖書にきく・お話 黒米理恵 22

〈連載〉 私たちのキリスト教保育 小高千恵 44

〈連載〉 みんなで楽しむ楽器 山内信子 48

私たちの園では 松村幹子 52

目福口福耳福 宮崎奈津子 55

礼拝のお話 伊集院玲子 57

風 佐藤徹 編集子 三ツ橋ゆり 67

連盟だより 68

カット 中畝治子 金井ユリ 藤安初枝 小鯛みのり 松成真理子
菟田とみ子 表紙絵 田中榎子